

## 編集後記・・・

■第13号という何やら節目の数字になります  
が、本誌重慶論客桐野前会長を欠いての出版となりました。2月に永眠されましたが、1月までは車椅子で天文館に足を運ばれるなど最後まで老後の生き方の手本を示されました。行年85歳でした。■庵主重朝氏は今年9月平均余命86歳を越え新次元に入られます。足腰は少し弱りましたが、口と頭は大丈夫のようです。渋谷新会長のもと世界秩序の変革時の今こそ、一回気力をもって更なる6年、18号を目指して頑張りたいものです。■また、本誌創設者貞子さん関連のテーマの種切れを気にしてしましたら、筆者の謡曲仲間榎原宣俊氏の入来文書関連記事を寄稿頂きました。感謝申し上げます。■来年明治維新150周年となり西郷隆盛が多方面から維新の立役者として注目されております。丁度明治維新100年の昭和43年4月鹿児島大学入来牧場が開設されました。同時に入来町役場も新設された時期です。関係したものととして50年余の月日の経過に感無量のものがあります。(中西)

■来年のNHK大河ドラマが「西郷くん」だからと  
いつわけではありませんが、西郷隆盛関連記事5

編が収まり、特集号めいた冊子になりました。■今年6月と7月に、念願だった山形県鶴岡市の松ヶ岡開墾場と沖永良部島の南洲翁史跡の訪問を果たしました。西郷隆盛の俗に「征韓論」といわれるものは何だったのか。庄内の地で「南洲翁遺訓」が出版され、後に荘内南洲会が発足さらに南洲神社が建立されて、今なお南洲翁についての勉強が続けられているといった史実あるいは「敬天愛人」の思想などに思いを巡らせながら考えてみると、宮下亮善和尚の書かれている「南洲翁の夢は、道義の普く行われる東亜の和平ではなかったのか」といつたりが理解できるような気がします。■渋谷新会長、中西編集長のもとで、18号を目指して頑張ります。(下土橋)

「炉ばたセイ談」 第13号

炉ばたセイ談会会長 渋谷繁樹

編集担当 中西喜彦・下土橋波

事務局T895-1402

薩摩川内市入来町浦之名130

入来院重朝方

TEL・FAX 0996-44-3586

印刷 新大同印刷株 (0996-30-1811)